

塾生による
リレー・エッセイ (2)



坪田 譲治 と 私



劉 迎
(連塾2期生)

坪田譲治と付き合ってきて、いつの間にか15年の歳月が経ちました。その間、坪田譲治文学の世界に浸る喜びや悲しみを味わいながら、その中にある深い意味に興味を感じ、その真髄を探求していく中で、私は少しずつ文学的に成長してきました。

思うに、私の坪田譲治への関心は、1994年の春、中国の出版社から依頼されて中国語版『日本児童文学史』に評論「坪田譲治的児童文学創作」を書いたのがきっかけでした。幼年期にほのぼのとした物語を読む機会がなかった私は、北京図書館所蔵の譲治の数多い作品に目を通して、彼の多面的な人間像に惹かれて、ついに躊躇することなく坪田譲治の世界に入っていました。

そして、1997年4月、私は岡山大学大学院に留学してからは、譲治の研究に打ち込み、作品研究および作家資料の収集・再構築を通して坪田譲治文学の形成とその特質の解明に迫ろうとすると共に、博士学位論文の作成や中国語訳『坪田譲治童話』の出版、公民館での活動など、さまざまな試行錯誤を繰り返してきて、譲治の心に少しは近づけたかなと思っています。

これからも、自分の中で譲治の世界を築き続けながら、すっかり時代の堆積に埋もれたままの譲治資料を新たに掘り出し、新しい視点からの検討を試み、その全貌の解明や芸術的な復活を目指しているのです。

来年は、譲治生誕120周年を迎えることとなりますが、市民の皆さんが、坪田文学とふれあい、その体験を通して何かを感じ取っていただければと思います。



晩年の
坪田 譲治

事務局から

- (1) 行事日程
- ※月例会日程に、変更はありません。
- 12月 6日 (日) 地域創生フォーラム
12月30日 (水) 大掃除・もちつき・年越しそば
- (2) 事務連絡
- 地域創生フォーラムは当法人の連塾、健塾、各研究会等、すべての会員の力で創り上げるイベントです。連塾のこれまでの5年間の「連力」を発揮する時です。当日来られない方も何か一つこのイベントのためにご協力ください。またフォーラムにはより多くの方にご参加いただき、地域創生を参加者全員で考える会にしたいと考えています。ご家族、ご友人、地域の方やお知り合いの方、どなたでも構いませんので、ご案内いただければ幸いです。
- また連塾では年末恒例行事の年越しイベントとして、大掃除・もちつき・年越しそば作りをしています。新たな一年を迎える直前の最後の「連」を楽しみましょう！
- (事務局長 佐藤大介)

岡山の新しい味！
桃太郎鍋の
おいしい季節になりました！



寒い日が続いています。こんな夜は桃太郎鍋を囲みませんか。この鍋のテーマは「桃太郎伝説」に基づき、連塾の松畑塾長が考案されました。桃太郎は桃太郎地鶏、吉備団子は黍餅、鬼は赤米を黍餅に入れたものが赤鬼、ヨモギ餅が青鬼です。キジはキジ肉、犬と猿はそれぞれ型抜きをしています。犬は大根で白犬、猿は人参で猿のお尻の赤、そして岡山特産の黄ニラをはじめ、葱、春菊、生椎茸、白菜など岡山産の野菜をしっかりと使います。ご家庭では、キジ肉や黍餅など手に入らない食材があるかもしれませんが、皆様の自由な発想で我が家の「桃太郎鍋」を作られてはいかがでしょう。この鍋のコンセプト①桃太郎と同じように食べる人みんなが元気を貰う。②同じ鍋で、みんなが楽しみ、家族や地域に対する気持ちが深まる。③食材は地産地消で、おいしい野菜もしっかり食べられる。野菜は健康のために1日350g以上摂りたいのですが、まだまだ摂り方が足りません。野菜はカリウム、食物繊維、抗酸化ビタミン類などを含み、脳卒中、高血圧、癌等を予防します。

また、低カロリーで、野菜をしっかりと食べることで、肥満や糖尿病を予防します。主役の桃太郎地鶏も脂質が少なく健康的。桃太郎鍋を囲んでメタボを予防！

さあ、今夜は桃太郎鍋だ!! 齊藤美加子 (健塾1期生)



齊藤美加子
(健塾1期生)

編集後記

* 第2号を発行できました！

7月に「連塾ニュース」を発行しまして、多くの塾生・会員の皆様方から歓迎していただき、大変嬉しく思いましたが、文面に一部訂正事項が見つかり、連塾・3期生の安田さんには、再印刷で大変お世話になりました。

この度、第2号発行のために、ご多用の中、玉稿をお寄せくださいました執筆者の皆様方には、心より感謝申し上げます。

次号は、3月中旬発行を予定しています。掲載したい話題がございましたら、編集担当まで情報提供をお願いいたします。

(連塾1期生・角田みどり、田口琢磨)

特定非営利活動法人(NPO法人)

連塾ニュース

第2号

平成21年11月30日発行

(所在地：〒700-0015 岡山市北区京山1-2-21
☎086-251-4615)

編集担当
角田みどり・田口琢磨



第1回「地域創生フォーラム」開催を目指して

理事長 松畑 熙一

今の日本を総括すると、「日本人としての自信と誇りを失いつつある時代」と言えるのではないでしょうか。過去の栄光にすがることなく、反省すべきは反省し、誇りに思うべきは更に伸ばしていく勇気と行動が求められています。

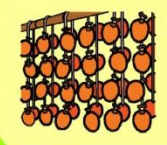
従来からの日本にあっては、「世間のつながりの中に生きた個性」を目指してきましたが、最近では、「個性」が集団から孤立した「孤性」になりやすく、世間・コミュニティの絆の希薄化が進んでいます。個人の行動を規制し、個人と一般社会の間にある「世間」を現代的な観点から創り直すことが求められています。つまり「地域創生」です。普通の「まちづくり」に留まることなく、「連」をキーワードに、地域住民一人ひとりが主役のネットワーク社会をどのように構築するかが重要な課題となっています。そのような時にあって、地域創生と福寿社会を目指す「連塾」の果たす役割はますます大きくなっています。開設5周年を迎えた「連塾」は、記念行事として公開



講演中の松畑理事長

の「地域創生フォーラム」を12月6日(日)に岡山県生涯学習センターを会場として開催することとなりました。

特定非営利活動法人「連塾」の5年間の活動成果として、会員による実践発表8本とシンポジウム「人と人の連(つな)がりを創出するには」を予定しています。夕方からは「桃太郎鍋」を囲んでの懇親会も企画しています。連塾・健塾・地域創生学研究所で共に学んだ塾生・会員の皆様一堂に会してこれまでの歩みを総括し、今後の活動指針を考え合う良き機会をなることを願っています。皆さんの手で大盛会・大成功となるよう協働しましょう！



歩いた！見た！聞いた！
第7回「旧山陽道歩く会」

平成21年10月18日(日)



尾藤 寿実
(連塾1期生)

奉還町を起点に第5回までは西行き、東行きは今回で2回目で通算第7回目となった「旧山陽道歩く会」、私は毎回参加をしてきましたが、次回で最終回だとちょっぴりしみじみしました。

実は当初、これって地域創生にリンクするか？と半信半疑でした。ところが何故か、開催当日になると日頃は寝坊が早起きしてせせせと出かけるのです。決して、あの強面の衣笠氏(会運営のリーダー)が恐かった訳ではありません。一つは回を重ねると、確かに醸成されていった連塾の連帯感にあったようです。この活動が、まず、連塾草創期の仲間意識を育んだというのが私の見方です。その意味で、塾生の参加が尻すぼみの傾向であるのはやや残念。ぜひ塾生の必修科目にすべきだと考えます。

さて、前口上はこれぐらいにして今回の道中記を。行程は上道駅から備前市香登駅までの15K、天気は晴朗なお無風、総勢60名強の小隊列ながら、それ故

親近感がにじみ、吊し柿のように秋の好日に似合っていました。「吊し柿 横目にウォーク のどかさや」早一句頂戴。昼食場所の備前大橋下の河川敷では、草野球やサッカー、ゴルフに興じる人々に異存なく交じってました。その後、今回の目玉、福岡庄探訪へ。郷土館の館長さんから簡潔に史話を受講。この庄が相当の地とは知識があったものの、歴史学はやはり現地を肌身に感じながら、地の伝承者に直伝されるに尽きると思います。これがこの会の真骨頂です。ただ、角田さん他の方々が寄り道して参拝し、素晴らしいと絶賛した妙興寺を見落としたことは悔やまれます。

最後に、長船刀剣博物館を見学して香登駅へ。おまけは参加者から知った醤油屋さんのソフトクリーム。あれ？屋号は何だったっけ。いいか。次回は、この醤油屋さんがメインの出発点になるのだから。次回も、乞うご期待！



福岡庄をテクテク

連塾・笠岡諸島宿泊研修会 島民との交流、5年間の取り組み

平成21年7月25日(土)～26日(日)

交流のはじまり

私ごとですが、平成17年の春に松畑照一先生が私財を投入され、人づくりのために連塾を開設されるという新聞報道を見て何か今自分が求めているものの解決策が見いだせるのではないかとこの衝動に駆られたのを思い出します。申し込みが殺到し、塾生としては締め切られたにも関わらず「聴講生」としてのお誘いがあり、運よく仲間入りができました。

私はもっぱら理論より実践派でしたから、塾の中では何度か議論が対立するところもありましたが、塾長がまちづくりにはフィールドが必要と判断されて、塾生の親睦と実践活動の場として、第1回目から笠岡諸島を推薦いただき、今年で5回目を迎えます。

これまでの歩み

第1回は、真鍋島の三虎旅館で森本洋子さんの話を聞きながら、島の活性化についての議論を深めました。

第2回は、白石島でシーカヤックや白石踊りを体験し、天野正さん、原田茂さんのお話を聞き、白石島の観光について意見交換を行いました。第3回は、再度真鍋島でゴーヤづくりや空家対策の現状を見ていただき、オプションで底引き漁体験も行いました。第4回は連塾生の尾藤寿実さん・高取宏樹さんのご協力のもとに行った「笠岡諸島夕陽フォトコンテスト」の撮影ツアーと合同で開催し、40名近い方々で白石・真鍋島の魅力を満喫していただきました。



守屋 基範
(連塾1期生)



第1回(真鍋島)2005.7.30～31



第2回(白石島)2006.9.9～10



第3回(真鍋島)2007.7.28～29



第4回(白石島・真鍋島)2008.7.26～27



「笠岡諸島夕陽フォトコンテスト」絵本



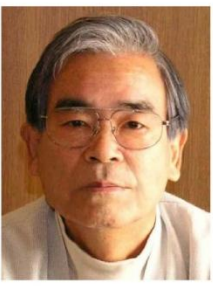
第5回(高島)2009.7.25～26

大いに議論した第5回目、「高島」での研修会

第5回は、切り札として高島を提案しました。私は笠岡諸島のよいところは、「人」だと思っています。高島の人には「妹尾陌正」さん。笠岡諸島の空家対策はこの人が生みの親。ペンションを運営する傍ら地域おこしにも積極的な島のリーダーです。全面的に妹尾さんにお世話になり、底引き体験からペンションでの交流会、翌日の勉強会を行わせていただきました。勉強会では「かさおか島づくり海社」の空家対策事業の検証を兼ねて、真鍋島から近藤真一郎さん、高島へ今年の4月に移住した成瀬義彦さんを加えて意見交換を行いました。結論は最終的には人に落ちつくと言うことです。塾長の講評の中で、「朝6時ごろ浜へ降りてみると、昨日遅くまで交流会で議論していた妹尾さんが、若い人の陣頭指揮をとっていた。何があるのかと尋ねると、身よりのない施設の子どもの60名招待して海で遊んでもらったり、食べたりする行事の準備をしているということ、あんなに遅くまで私たちにつきあってくれて、朝早くからボランティアで恵まれない子どものために頑張っている姿に感動。この人がいるから空家対策はここまで成功したんだ。これからもこの人がいれば大丈夫」というお言葉がすべてのような感じがした。それぞれの地域で本気で考える人が数人いれば必ずどうにかなる。「地域づくりは人づくり」ということを実感するものでした。

来年は島づくり海社の鳴本浩二理事長の北木島での開催を予定しています。島でのよき出会いを！

参加報告 「木造大規模建築の可能性 バス見学会」に参加して



福田 明正
(連塾3期生)

第7回 新庄村森林セラピーロード、美甘小学校、旧遷喬小学校

8月27日(木)、総参加者約70名の中に連塾より世話役の安田さん他7名が参加しました。岡山原駐車を8時過ぎ集合、2台のバスで高速蒜山ICへ。毛無山1218mの山麓にある「新庄村森林セラピーロード」到着。道の両側は松と杉の背の高い植林が続き、周囲の全ての緑がヒートンチッドというマイナスイオンを発生しています。これらこれ



美甘小の八角形多目的ホール

が気分爽快のもと。美味しい山菜弁当を頂き、全員元気になって山道を下りました。次に新庄村の町並みへ、町の両側ががいせん桜の並木、4月の満開は見応えの花街道だったろうと想像、街の両側に清流の水路あって、所々に水を引込んだ溜まりに大きな鯉やサンショウウオが…。町並みには昔の出雲街道の名残である脇本陣屋、茶屋、旅籠などの面影が残っていました。

続いて、「駅の道メルヘンの里・新庄」へ。先頭に立って村おこしを推進している新庄村長にも出会いました。

次の美甘小学校は、新しい形の木造小学校です。岡山県産松の

構造用集成材を柱、梁、土台に多用して組上げた建物は新鮮で力強く、優しい雰囲気を見せていました。八角形の多目的ホールはピカピカの床、柱や梁、天井などの木造の新鮮さと優しさと、角柱の力強い感触が新しい集積材の将来性を暗示しています。ホールに続く2階建ての教室の長い並びは中央に廊下、両側に教室が幾つも続く、昔の木造と印象が異なるのは木造の木目を出しながらの透明塗装で、窓、柱、床、壁共に木造が新鮮でした。

次に、100年もの年月を経た木造の旧遷喬尋常小学校は、明治大正時代の木造2階建ての重要文化財です。中央に威厳と気品の講堂、両側に対称的に教室は並びます。特に有名なのが講堂の「折上げ天井」という優美な形、2段天井の境目がS字型に仕上がった形が美しい。講堂の屋根は、石版のスレートで大変珍しく、未永く保存したい建築文化の一つでした。



旧遷喬尋常小学校の威厳と風格ある校舎

自然林のセラピー、新しい木造建築造りの新鮮さ、歴史的な木造建築造りの保存の大切さなどを体験、見聞した意義ある1日でありました

第8回 真庭木材市場、120年松モデル林、日南町庁舎

10月14日(水)のバス見学会では、大型バス2台で「真庭木材市場」「120年松モデル林」「鳥取県日南町庁舎」「(株)オロチ」に向きました。

真庭木材市場では、「せり市」の様子を見学しました。余りの低価格で木材が売り買いされている現場を目の当たりにし、林業を取り巻く環境の厳しさを実感しました。健全な林業経営と健全な社会を同調させるために、今後とも創意工夫をもって林業振興に取り組んでいきたいと思いました。

勝山・富原の120年松モデル林では、地元の方から整備計画についての説明を受け、等間隔にまっすぐ伸びた松林は実に美しいと感じました。樹林の香りと木漏れ陽の中で、地元のお母さん方の手作り「蒜山おこわ」「山菜汁」の昼食は格別に美味い味でした。



120年松モデル林

鳥取県日南町庁舎は、地域材の地産・地消(構造材は町有林、内装材は14種類の用材を町民が提供、ほぼ100%が町内材)を生かした

素晴らしい庁舎でした。特に、入口の吹き抜けをはじめ、行灯風の照明、障子窓など、日本家屋の伝統美を生かした木造大規模建築物のよさを堪能できました。町議会室も木調を生かした造りで、参加者が次々に議長席に座ってみました。



藤井 清治
(連塾1期生)



日南町庁舎の入口吹き抜け

(株)オロチの工場見学では、杉丸太をカツラ剥きした厚さ2～3mmの単板を積層接着した木材(LVL)の技術革新に目を見張りました。

見学の最後に、大佐サービエリアで、大きな二重の虹の架け橋が現れ、空からのプレゼントに大歓声が上がりました。

雨交じりの天候にもかかわらず、傘は一度もささずに済み、持続可能な社会(循環型社会)の構築のために林業は不可欠であると感動したツアーになりました。世話役の安田年一さん、大変お世話になりました！